

「放送システムに関する技術的条件」のうち「超高精細度テレビジョン放送システムに関する技術的条件」のうち「超高精細度テレビジョン放送システム等の高画質化に係る技術的条件」の検討開始について

1. 検討の背景

放送・通信分野において、新たな映像符号化方式等、現行の高精細度テレビジョン放送を超える飛躍的な画質の向上に資する映像技術等の研究開発や標準化が進展しており、超高精細度映像（4K・8K）によるテレビジョン放送の映像形式に関する国際標準の策定も行われ、放送の高画質化への取組が世界的に加速している。

総務省では、平成24年11月より「放送サービスの高度化に関する検討会」（座長：須藤 修 東京大学大学院情報学環長・教授）を開催し、同検討会に「スーパーハイビジョンWG」（主査：伊東 晋 東京理科大学理工学部教授）を設置して検討を進め、スーパーハイビジョン（4K・8K）による放送サービスや受信機の実用化・普及に関するロードマップを平成25年5月31日に策定した。

このロードマップを踏まえ、超高精細度テレビジョン放送システムの技術的条件について検討を行い、平成26年3月に「超高精細度テレビジョン放送に関する技術的条件」のうち「衛星基幹放送及び衛星一般放送に関する技術的条件」の中で「今後の課題として、諸外国の放送方式の検討状況等についても引き続き注視していく必要がある旨」と答申したところである。

平成26年2月からスタートした「4K・8Kロードマップに関するフォローアップ会合」（座長：伊東 晋東京理科大学理工学部教授）においては、各目標年の取組の具体化・加速化並びにロードマップに示された目標実現に際しての課題及び課題解決のための具体的方策等について検討を進め、平成27年7月30日に発表された第二次中間報告において、HDR（High Dynamic Range imaging）の動向について、米国などで4Kフォーマット+HDRでの映像配信が予定されていること、4K対応のBD「Ultra HD Blu-ray」の仕様においてもダイナミックレンジの拡大が行われていることが報告されたところである。また、現在ITU-R SG6においても広色域（BT.2020）をベースにしたダイナミックレンジ拡大に関する放送規格を策定中である。

このような背景を踏まえて、我が国においても超高精細度テレビジョン放送等の更なる高画質化を図るため、必要な技術的条件の検討を行うものである。

2. 検討内容

平成18年9月28日付け諮問第2023号「放送システムに関する技術的条件」のうち「超

高精細度テレビジョン放送に関する技術的条件」のうち「超高精細度テレビジョン放送システム等の高画質化に係る技術的条件」

3. 検討体制

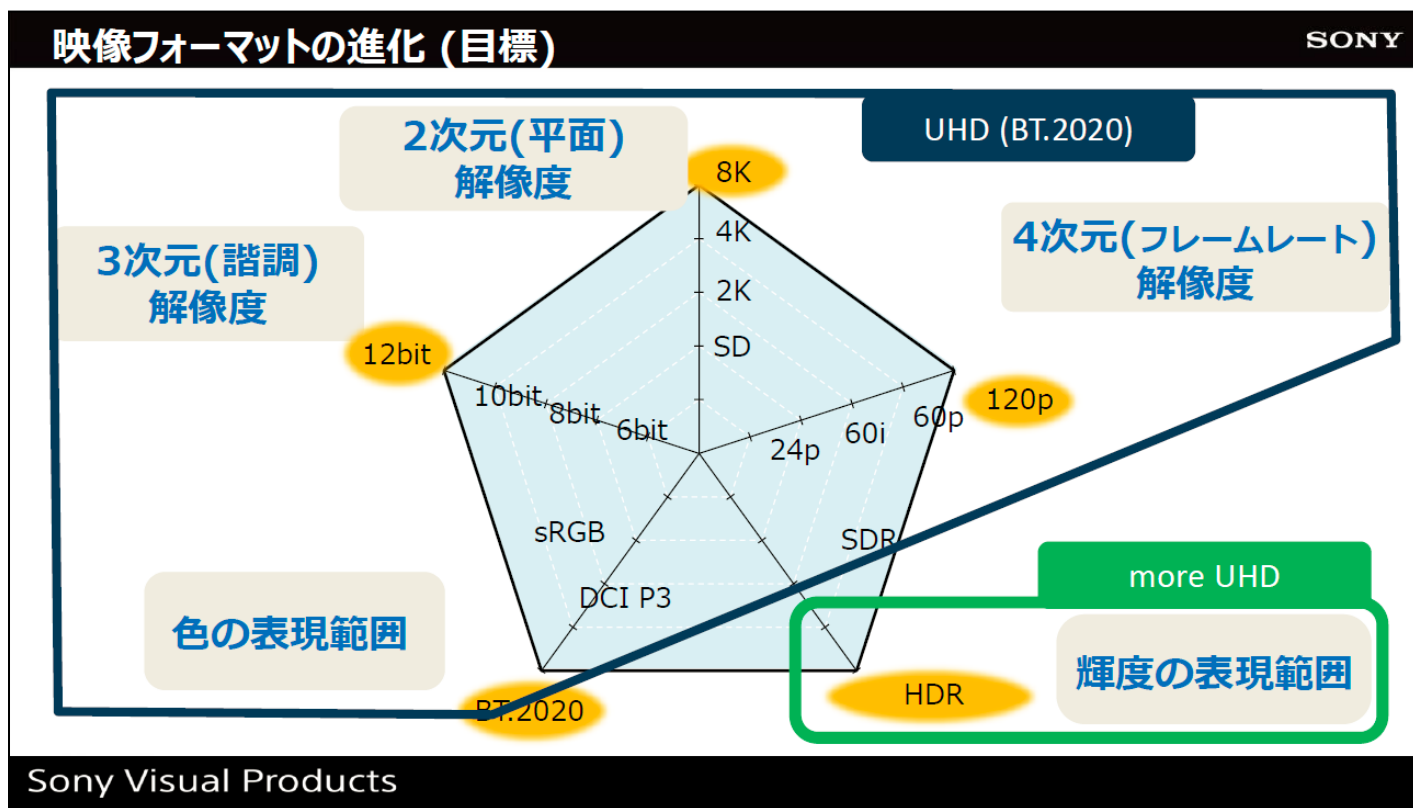
既存の放送システム委員会（主査：伊丹 誠 東京理科大学基礎工学部教授）において検討を行う。また、委員会が必要とする情報を収集し、委員会の検討を促進させるため、放送システム委員会下に「HDR作業班」を設置することとする。

4. 一部答申を予定する時期

平成 28 年 3 月～4 月頃

超高精細度テレビジョン放送システム等の高画質化に係る技術的条件の検討開始について

- 現行のHDTVを超える空間解像度等を有するUHDTVに対応した超高精細度テレビジョン放送の実用化、普及促進等を図るため、より効率的な伝送を可能とする最新技術の導入等、必要な技術的条件を取りまとめることについて、平成25年5月に検討開始し、平成26年3月に一部答申。
- HDR技術は米国で4Kフォーマット+HDRでの映像配信が予定されており、4K対応のBD「Ultra HD Blu-ray」の仕様においても対応が行われているところ。
- ITU-R SG6においても広色域(BT.2020)をベースにしたダイナミックレンジ拡大に関する放送規格を策定中であり、超高精細度テレビジョンの試験放送を来年度に控えた我が国としても、この動きに対応するべく「超高精細度テレビジョン放送システム等の高画質化に係る技術的条件」として、技術的条件の検討を開始。



HDR技術について

HDRとは？その効能

SONY

旧来



暗いところを暗く表現しようとするとも明るいところが白飛びしてしまう

現状の信号と最新の高輝度TV

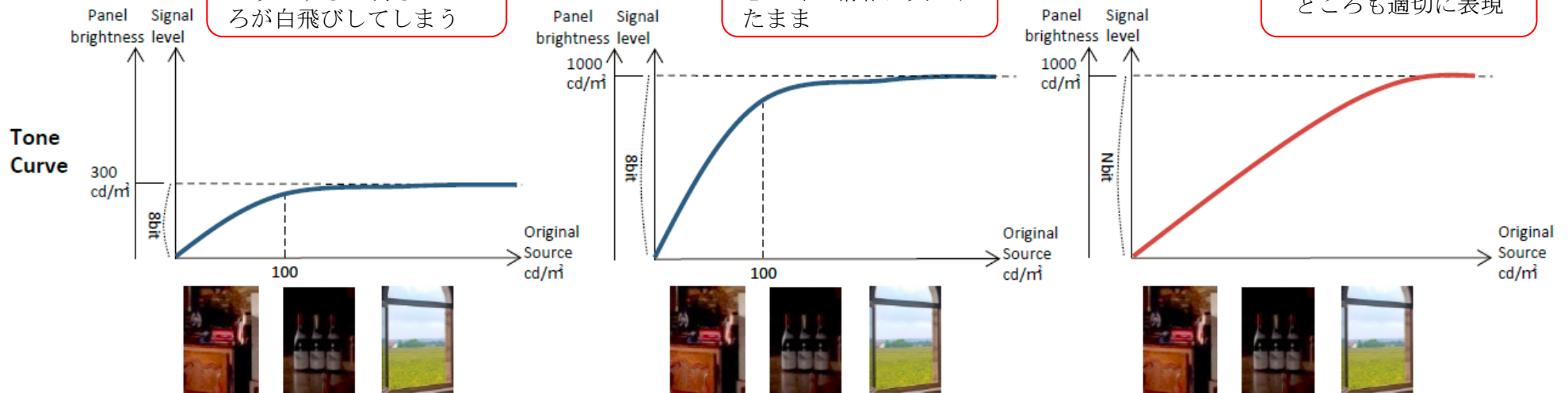


全体の輝度を上げてても窓の外の情報は失われたまま

HDRと最新の高輝度TV



暗いところも明るいところも適切に表現

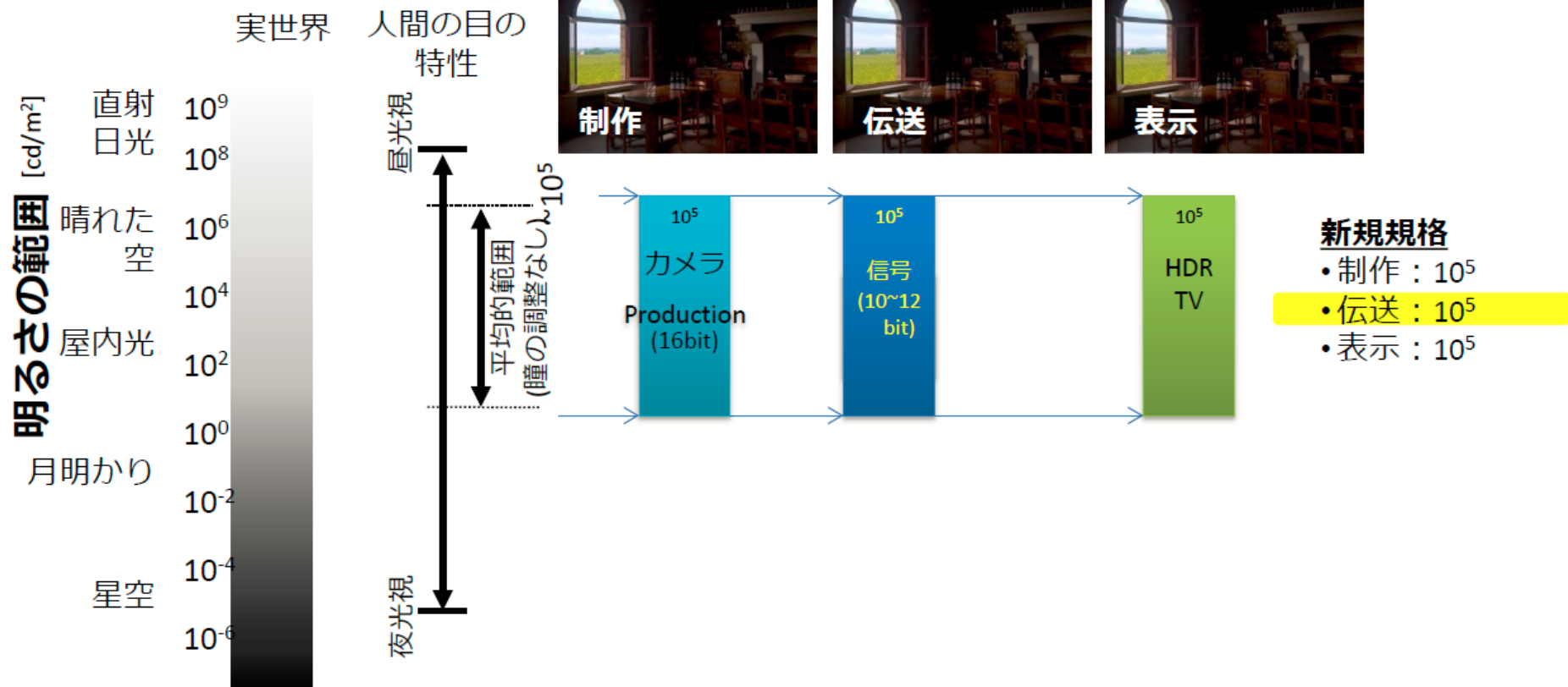


Sony Visual Products

HDR映像伝送について

HDR映像伝送方式

SONY



Sony Visual Products